

# 紫峰(しほう)

登録番号：第3943号

育成者：金戸樺夫 志村 勲 壽 和夫 清家金嗣 大村三男

登録年月日：平成6年3月14日

梶浦一郎 町田 裕 佐藤義彦 阿部和幸 栗原昭夫

登録者：農林水産省果樹試験場

緒方達志 斉藤寿広 小園照雄

(茨城県つくば市藤本2-1)

来歴：「銀鈴」と「石鎚」の交雑実生

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は強く、特に若木の伸長は旺盛である。発芽期は関東地方で4月5日頃と「丹沢」、「国見」、「筑波」とほぼ同じで、「銀鈴」、「石鎚」より早い。葉は楕円状ひ針形で、毛じの発生は少ない。雄花穂は「銀鈴」、「石鎚」より長く、樹姿は「銀鈴」の開張、「石鎚」の直立に対し、中間である。雌花の着生は1結果母枝当たり1～5花で「銀鈴」よりは多いが「石鎚」より少なく、全体としては中位である。生理落果は比較的少ない。雌花の開花期は6月9日頃で「筑波」と同時期であるが、雄花の開花期は6月14日頃と「筑波」よりやや早い。他品種との間で交配不和合性は認められていない。落葉期は11月上中旬で、「筑波」、「銀鈴」とほぼ同時期である。クリタマバチ抵抗性は「筑波」より明らかに強い。

### ■果実特性

毬果は扁球形で大きい。毬肉の厚さおよび刺の長さ、密度は中位で、刺の長さは「銀鈴」より長く、「石鎚」より短い。毬梗の長さ、太さも中程度である。果実は平均26gで、「国見」よりやや小さいが、「丹沢」、「筑波」よりは若干大きく、玉揃いも良好である。果皮の色は褐色で、毛じの発生は少ない。側果並びに中果の側面はともに帯円三角形で、座の大きさは「石鎚」より大きく、「銀鈴」より小さい。接線は波形を呈する。果実比重は平均1.05と比較的高い。果肉の色は淡黄色、肉質は粉質で甘味および香気は中程度であり、この時期に収穫される品種としては品質が優れている。裂果の発生は「国見」、「筑波」と同程度であり、「丹沢」に比べると明らかに少ない。また、双子果の発生も少なく、渋皮の果肉への陥入程度も少ないが、深く陥入した果実が混じることもある。

果実の成熟期は9月下旬で、「筑波」とほぼ同時期に熟すが、年により「筑波」より早く収穫されることがある。収穫時における毬梗の離脱の難易も普通である。結果性は良好で、これまで調査を行った若木時代では筑波とほぼ同程度の収量が期待できる。

### ■栽培上の留意点

本品種の試作期間は短かく、特性の詳細は今後さらに慎重に検討する必要がある。しかし、これまでは特に大きな問題点はない。クリタマバチに対しては強い抵抗性を示し、他の一般的病害虫に対しても通常の防除で対応が可能と思われる。なお、立枯症多発地帯においても本品種での被害は報告されていないが、一部の地域で胴枯病に類似した症状の発生が報告されている。これが今後の大きな問題となるか否かは現時点では判断が難しい。

### ■地域適応性

発表後の年月が短いために、特性が十分に解明されているとはいえないが、系統適応性試験の結果から判断すれば、本品種はわが国クリ産地のほぼ全域に適應してその特性を発揮すると思われる。「筑波」と同時期に収穫できる品種であり、この時期の品種としては十分に優れた果実品質をもっているが、「筑波」と最も異なる点はクリタマバチに対して強い抵抗性を示すことである。「筑波」に対するクリタマバチの被害が著しく、十分な収量が得られない場合には本品種の導入を検討するべきと思われる。

(壽 和夫)